

茂木七郎右衛門 財団法人興風会初代理事長

初代理事長である茂木七郎右衛門(旧名・兵三郎)は、1860(万延元)年2月24日に誕生。1884(明治17)年8月、野田町戸長に就任しますが、1年余りで辞して醤油醸造業に専念します。福沢諭吉(1835～1901)に私淑して財政経済を、また、宇都宮三郎(1834～1902)に就いて醸造化学を研究し、同氏の協力を得て醤油醸造界で初めてといわれる化学研究所を設置し、大いに醸造法の改革を図りました。

また、野田醤油醸造組合頭取、野田商誘銀行頭取、千秋社代表社員、北総鉄道株式会社社長など要職に就く一方で、還暦を迎えた1920(大正9)年に「野田謝恩会」を設立。私財を投じて育英事業に力を入れます。その後、興風会が謝恩会を引き継いで現在に至っています。

そして、興風会が発足した1929(昭和4)年4月4日に財団法人興風会の初代理事長に就任しますが、同月19日、死去しました。

書には、「大正乙丑」とあることから、1925(大正14)年の揮毫と思われます。

『goo辞書』によれば「敬愛」とは「尊敬し、親しみの心を持つこと」と書かれています。

[参考資料] 『キッコーマン醤油史』キッコーマン醤油株式会社・1968年10月19日発行／『興風会館物語－醤油の町のロマネスク』山本文男・(財)興風会・2005年12月20日発行



号は「楽堂」と称しました